

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 日時

令和 8 年 3 月 28 日（土） 14：00～15：00

2. 場所

幸生会事務所 4 階

3. 出席者

【構成員】5 名

N 様(利用者代表)、I 様(利用者のご家族)、Y 様(地域の関係者)、Y 様(福祉の知見のある人)、
K 様(経営に知見のある人)

【職員】4 名

理事長、サービス管理責任者、管理責任者、事務員

4. 本日の内容

- ・開会
- ・自己紹介
- ・会議の趣旨説明
- ・事業所からの報告(各施設の紹介、ヒヤリハット、防災について)
- ・意見まとめ
- ・まとめ
- ・閉会

5. 配布資料

地域連携推進会議について

6. 議事

■事業所報告

(1) 各施設の説明 ※スライド(資料)にて説明

- ・志茂寮、第二志茂寮、第三志茂寮は：男女計 11 名が利用。法人内で最初に開設された事業であり、利用者の自立度が高い。休日は各自自由に過ごしている。
- ・尾久寮：男女計 4 名が利用。精神疾患のある利用者があるが、物づくり等の活動に取り組んでいる。
- ・蓮沼寮：男性計 4 名が利用。3 月に新しい寮に入居開始したばかりであり、居室は整理途中である。
- ・加賀寮：女性計 6 名が利用。法人内で唯一の女性寮。物件の都合上により裏口を出入り口として使用しており、今後新たな物件への移転を検討している。
- ・第二加賀寮は：男女計 5 名が利用。食事は主にヨシケイを利用しているが、誕生日会時には特別食を

提供している。

- ・きらめき寮：男女計5名が利用。自立度の高い利用者が多く、作業所通所2名、一般就労3名。休日にも個別に外出する利用者が多い。
- ・日の出寮：男女計6名が利用。マンション1階に位置し、居室内は整理整頓が行き届いている。
- ・仲原寮：男性5名が利用。落ち着いた生活環境となっている。

【質疑】

体力低下や認知機能の低下が見られる利用者への対応について

【回答】

介護認定の申請を行い、ケアマネージャーを配置。その後、ご家族様と連携しながら高齢者施設等への移行を行っている。

障がい者グループホームは日中活動が可能な方を対象としているため、看取り等の対応は行っていない。

(2) 防災について ※スライド(資料)にて説明

今期は世話人のみで防災体験学習(そなエリア東京)に参加し、災害時の状況を体験した。

来期は利用者も、他の防災体験への参加を予定している。

事務所4階を避難場所として位置付け、寝袋や飲料水を備蓄している。

また、浸水想定区域にある寮(志茂寮、第二志茂寮、第三志茂寮、尾久寮、加賀寮、日の出寮、仲原寮)については、高台にある寮(蓮沼寮、第二加賀寮、きらめき寮)へ物資を分散配置している。

【質疑】

①浸水時の避難先について

②火災時の訓練実施状況について

【回答】

①事前に予測可能な災害については、事務所4階または各寮近隣に指定避難場所へ避難する。

避難者が多く、パニックを起こす利用者が想定される場合に備え、事務所4階を避難場所として位置付けている。

尾久寮では過去に指定避難所へ避難した際、パニックになる利用者がいたため、必要に応じてホテルを随時予約し対応している。

②各寮で防災訓練を実施しており、避難完了までの時間測定や個々の利用者の避難行動の確認を行っている。

また、世話人不在時に備え、代表利用者を定め、災害時の対応を周知している。今後も継続的に訓練を実施する。

(3) ヒヤリハット事例 ※スライド(資料)にて説明

【きらめき寮】

朝食用に購入した共有の食品(バナナ)を利用者が食べてしまう事例が発生した。

共有物は利用者の食費により購入している。

共有物と個人で購入した物の区別が不十分であった可能性があるため、利用者へ再周知を実施した。

あわせて個人用冷蔵庫を導入し、再発防止に努めた。

【仲原寮】

共有電話機の長時間利用が頻発した。

電気代は他の利用者も負担しているため、他利用者への影響が懸念された。

声掛けによる改善が困難であったことから、電話機を世話人室へ移設し対応した。

現在、特段の不満は確認されていない。

【蓮沼寮】

利用者 A が利用者 B の手を引く事案が発生した。

両者は同一作業所に通所しており、一緒に通所している。B の頻繁な水分摂取により、通所時のトイレ利用が多くなり、通所に遅れることがあったため、A が不満を抱いていたことが背景にある。

今後は職員による見守りを強化し、再発防止に努めていく。

【質疑】

過去に類似事例について

【回答】

過去に類似事例が発生した際も、個人用冷蔵庫の導入および利用者への再周知を実施し、再発防止に努めた。

■ 意見交換

I 様(利用者の家族)

体重管理について懸念がある。

【回答】

現在、朝夕ヨシケイを活用しているが、昼食や休日は個別で購入するため、体重管理に課題がある利用者もいる。一方で常時ではないため、過度な体重増加とならないよう配慮している。

医療機関と連携し、医師からの助言も受けながら、利用者自身の健康意識の向上を図っている。

また、現在は 2 寮のみで訪問看護を利用しているが、今後は他寮への導入も検討している。

Y 様(福祉の知見のある人)

嗜好品の制限ではなく、本人の気持ちを尊重しつつ食事や運動について話し合うことが重要。

運動習慣を取り入れることで、食事管理と結びつけた支援が可能となる。

また、外部支援者の関わりにより行動変容が見られる場合もある。

K 様(経営に知見のある人)

次年度以降、事業報告を配布することで、取組状況(虐待防止等)の可視化が図れるのではないかと。

【回答】

次年度から用意する。

Y 様(地域の関係者)

目に見えにくい虐待への配慮も重要である。

【回答】

虐待防止委員会を設置し、年 3～4 回の研修を実施している。

言葉遣い等についても見直しを行い、利用者の尊厳に配慮した支援に努めている。

また、地域行事への参加を通じて、地域との交流促進を図っていく。

7. まとめ

本会議では、各施設の現状、防災対策、ヒヤリハット事例について共有するとともに、出席者より多様な意見をいただいた。次年度も 2 月頃の開催を予定しており、引き続きご協力のほどお願い申し上げます。今後も関係機関および地域との連携を深め、より良い支援体制の構築に努めていく。

また、本会議では利用者の個人情報に触れる可能性があるため、ご家族への配慮も含め、会議において得た個人情報については、外部へ漏洩することのないようお願いする。

